



01

若年性認知症支援広域
ネットワーク会議



お知らせ

- ・介護人材交流協同組合より
- ・WEB研修・会議



02

県との意見交換会



巻頭言

副理事長挨拶

NPO法人 手と手 原山 直人

令和3年、新型コロナウイルスによって、大変な年明けになりました。また同時に、今年は介護報酬改定がありますので、不安を抱えている会員の皆様が多いと思います。

新型コロナウイルスによって、人とのつながり、地域とのつながり、事業所間の連携が取りづらくなりました。それは、利用者さんの暮らしづらさにも繋がっています。また、皆様の事業所でも、利用者さんへの感染予防、家族との関わり、職員のコロナに対する不安への対応等、日々苦心されていると思います。

私も今まで普通にできていたこと、例えば利用者さ

んと一緒に食事をしたり、和気あいあいと過ごしたり、どこかへ出かけたり、地域の方々との交流等が難しくなり、もどかしさを感じています。もとの生活にはすぐ戻れないかもしれませんが、少しでも利用者・職員の暮らしが豊かになるよう努めていきたいと思っています。

当連絡会は、今年もオンラインでの研修を企画・実施する予定です。また「宅老所」・「グループホーム」・「小規模多機能」等、それぞれの部会の会員同士が、を、オンラインで会員同士が交流できるよう企画しております。その中で、不安の解消・情報交換をし、事業所間のつながりを構築できればと思います。みなさま、ふるってご参加ください。デジタルが苦手という方も大丈夫です。事務局がサポートいたします。

まだまだ、先が見えませんが、会員同士励まし合いながら、この大変な時期を乗り越えましょう！

2020年度 若年性認知症支援広域ネットワーク会議 本人ミーティングをはじめよう in松本 ～当事者が集い、話し、仲間をつくるとは～

長野県若年性認知症支援コーディネーター 田實陽

令和2年10月15日『本人ミーティングをはじめよう in松本～当事者が集い、話し、仲間をつくるとは～』と題してWEB講演が行われました。

第1部は、仙台おれんじドア代表 丹野智文氏からおれんじドアの実践報告と、borderless-with dementiaメンバーの鬼頭史樹氏より「ボーダレスを考える」の講演を頂きました。

丹野氏の講演の中にあつた「本人のやりたいことや本人の生き方を当事者同士で話をして実現していく」という言葉や、鬼頭氏が仰った「誰かが誰かを一方的に支えるのではなく支えあいの気持ちが大切。<受け手><支え手>という境界線をなくした関係がパートナー」という言葉が印象に残りました。当事者同士が話をする事で様々な『やりたいこと』が出てくる。それをパートナーと共に実現していくことで、誰もが暮らしやすい地域になって



いくのではないかと感じました。

第2部は、会場に集まった松本市の方を中心に「本人ミーティング」について意見交換を行いました。当事者の方や家族、行政、学生、一般企業など様々な立場からの意見が上がる中、「本人や家族が気兼ねなく話ができる場所が必要」という意見が多く、一般企業や学生からの賛同や協力を得ることができました。また、今回のネットワーク会議をきっかけに11月から松本市で本人ミーティングが開催されることが決まりました。

本人ミーティングが各地に広がり、ピアサポートの場が多くの方に活用されることを願います。



2021年10月21日

長野県介護福祉課との意見交換会について

株式会社和が家 今井 祐輔

令和2年10月21日に県介護福祉課（課長含め5名）と連絡会員（理事長含め8名）にて、第8期長野県高齢者プランの策定に伴う意見交換会を行いました。

8期のポイントは大きく4つ、①2025・2045年を見据えたサービス基盤、人的基盤の整備 ②介護予防・健康づくり施作の充実・推進 ③地域包括ケアシステムを支える介護人材確保の取り組み及び業務請負の効率化 ④災害や感染症対策に係る体制整備です。



多岐にわたるため、今回は「介護人材の確保」について主とした話し合いを行いました。連絡会会員の法人・事業所の状況及び、人材確保が難しいこと。さらには、人材確保に関する取り組み状況、介護人材の育成（キャリアパス）離職率を下げる取り組みなど、事例を赤裸々に話し介護福祉課と課題を共有しました。話題は、海外人材から高齢者の働き手の確保や、現在行なっている県の施策の共有に及びました。

これらの情報を県が取りまとめ8期計画に落とし込んでいきます。今回は時間の関係上人材確保が主でしたが、現在、私今井が8期高齢者プランの策定委員で懇話会に参加しています。

引き続き当会の皆様の状況をお伝えし、7期に組み込まれた宅老所の地域置ける役割の実践など進化する内容に関わって行きます。

お知らせ

介護人材交流協同組合より

会員の皆様はコロナ禍の大変な状況のなかで、介護現場の最前線で奮闘されているかと思えます。会員同士が励まし合い、助け合いながらこの苦境を乗り越えられたらと切に願います。

この度、当連絡会会員の7法人で立ち上げた「介護人材交流協同組合」についてご紹介させていただきます。当組合は技能実習生の受け入れを目的とし2016年に立ち上げました。現在、13法人が加入し、ベトナムから8名の実習生を受け入れ、それぞれの介護現場で実習をおこなっています。今後、タイから看護助手の資格を有した実習生も入国予定です。実習生の皆さんは意欲も高く、日本人スタッフと共にチームケアに取り組んでいます。受け入れ事業所さんから聞いた話で驚いたことは、「利用者さんに寄り添った介護ができる」とのことでした。しっかり利用者さんの話を傾聴し、事業所のコンセプトに沿ったケアが少しずつできるようになった結果だと思えます。

現在、介護施設で外国人（外国籍）が働く場合は、技能実習生か特定活動者になります。両者とも日本語能力試験合格者、介護技能評価試験等の合格が必須になります。

これから2025年をピークに高齢者人口が増え2040年頃までは介護施設のニーズは続きます。技能実習生も特定活動者も、人材不足でやりたいケアが実践できない、スタッフが高齢化して重介護が難しいといった課題を解決する一つの方法だと思えます。

実際に実習生の働く姿が見たい！制度について知りたい！といった会員の方は、【介護人材交流協同組合本部 (0263) 26-8332】までご連絡ください。日々の組合活動については「介護人材交流協同組合」のHPのブログをご覧ください。



Web研修&会議 行っています！

このコロナ禍で、否応なしにデジタル化を迫られました。連絡会も従来の対面型の研修からZOOMを使ったオンライン研修が中心になります。パソコンは請求処理、ケアプラン作成、事業所の通知作成などが主で、それ以外の使い方をしたことがない方たち多いかと思いますが「アナログ人間だから」と逃げ回ることなくしっかりと流れについてきてほしい。そんな狙いで昨年11月18日にオンラインのためのオンライン研修を行いました。

仕組みや、方法など確かに意味不明な用語が並びますが、「習うより慣れよ」です。これからも気軽に参加できるオンライン研修や集いなど企画して、皆さんの「場数を踏む」機会を提供したいと考えております。移動や距離は全く考えなくてもいいオンラインの世界はとても便利なことも多いのでまだ、苦手意識を持たれている方があれば事務局へご連絡ください。なんとかします！

研修のお申込みは
スマホ・PCからできます！

研修や会議の詳細は
連絡会 HP の
「研修・シンポジウム」
または
「お知らせ」ページから



<http://www.nagano-taku-gh.jp/>